

「土砂災害の過去から」

神奈川県 小田原市立城山中学校 3年 ^{すずき}鈴木 ^{ひなこ}日向子

私には、忘れられない映像があります。小学6年生のときの理科の授業で見た、土砂災害の映像です。そのときの衝撃は、今でも覚えています。あれはきっとがけ崩れだったと思います。どこにでもあるような、コンクリートの道が山にありました。そこはカーブになっており、もちろん車も走っていました。そして、雨が降っていました。その映像を私たちは何気なく見ていました。すると、その道路は一瞬にして落ちていきました。ある部分そのまま斜面を下り、ばらばらになっていく、そのような様子でした。地面が崩れるのに続き、木も倒れ、車も落ち、その後、続いて土石流がすごい勢いで下ってきました。その数十秒の間、私は目が離せませんでした。初めて見るその光景に、私は恐怖を覚えました。

もう1つ、忘れられない写真があります。それは、祖父が持っていた、「地震と戦争の記録」という本の中にありました。関東大震災のときの、海岸に押し出された電車の写真です。そこには、たくさんのがれきに埋もれ、横になっている電車がありました。祖父によると、関東大震災の山津波によって、走っていた電車が押し流され、あの写真のようになったといっています。

私は、「地震と戦争の記録」に書かれている。たくさんの方の体験談を読みました。それを見ると、真夏のとても暑い日のようでした。震災前はずっと雨が降っておらず、農業を営む、その集落の人々は、ずっと雨を望んでいたそうです。ある日、やっと雨が降り、人々は安心しきっていました。そこに、関東大震災がやってきた、とされるされていました。ある人の体験談の最後の文に、「天災は忘れたころにやってくる」とありました。私は、まさにその通りだと思いました。それと同時に、本当につらい現実だとも思いました。

私は、関東大震災で多大な被害を出した、その地域に住んでいます。私の家の周りは山で囲まれ、前を見ると、海も広がっています。私は、この自然に囲まれた、この地域が大好きです。だからこそ、土砂災害には十分そなえ、自分や家族、友達が無事であることは、とても大切なことだと思います。しかし、私は、土砂災害について、こんなに深く考えたことはありませんでした。もちろん、土砂災害のそなえ方も知りません。だから、調べてみることにしました。

土砂災害から身を守るために知っておかなければならないことは、大きく3つあるそうです。

1つ目は、住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認することです。土砂災害発生のおそれがある地域は、この指定をされているそうです。私の家の周辺は、この指定をうけていました。

2つ目は、雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意することです。私は今まで、雨が降っても、「雨かあ。やだな。」程度にしか思っていませんでした。

3つ目は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難することです。実際、本の体験談の中で、「あと少し、家から出るのが早ければ。」というようなことも書いてありました。すぐに避難することは、とても大切だと思いました。

しかし、どこに避難したらいいのか、それは状況によって変わってきます。その中で、どれだけ冷静にいられるかということも、重要だと思います。また、私が考えた、土砂災害から身を守るためのことも、常に考えておきたいです。それは、地震などでもできることですが、防災グッズをすぐに取りれる場所においておくことです。1回家を出たら、いつ戻れるかわかりません。東日本大震災のように、もう戻れなくなるかもしれません。だから、水や食料、それに家族の写真などを入れた防災グッズは必要だと思いました。これらの4つのことを意識して、この自然の中を生きていきたいです。これから、防災グッズをつくらうと思います。